

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第38週 2022年9月19日（月）～ 2022年9月25日（日） 2022年9月29日作成

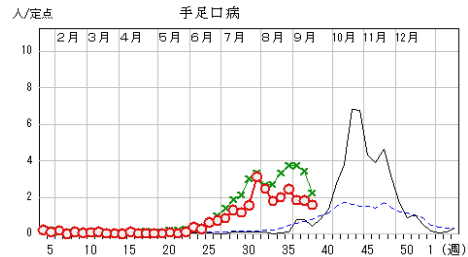
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）手足口病

第38週の報告数は70人で、前週より10人少なく、定点当たりの報告数は1.59であった。

年齢別では、1歳（29人）、2歳（18人）、6歳（6人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（3.67）、県北保健所（2.67）、五島保健所（2.25）であった。

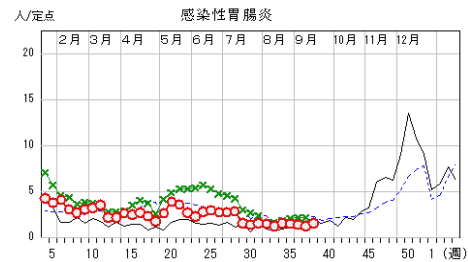


（2）感染性胃腸炎

第38週の報告数は69人で、前週より14人多く、定点当たりの報告数は1.57であった。

年齢別では、1歳（15人）、2歳（9人）、3歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（7.17）、県北保健所（2.67）であった。

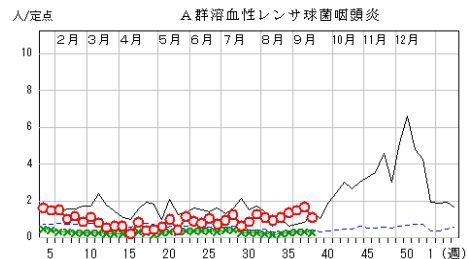


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第38週の報告数は48人で、前週より26人少なく、定点当たりの報告数は1.09であった。

年齢別では、10～14歳（10人）、3歳（7人）、4歳（7人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（9.20）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第38週の報告数は70人で、前週より10人少なく、定点当たりの報告数は1.59となりました。地区別にみると、県央地区（3.67）、県北地区（2.67）、五島地区（2.25）は他の地区より多くなっています。県全体では減少傾向にありますが、今後も動向に注意しましょう。

手足口病は、例年5月頃から報告数が増加し、夏場にピークを迎えます。本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早目に医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

【感染性胃腸炎】

第38週の報告数は69人で、前週より14人多く、定点当たりの報告数は1.57でした。地区別にみると県央地区（7.17）、県北地区（2.67）の定点当たり報告数は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第38週の報告数は48人で、前週より26人少なく、定点当たりの報告数は1.09でした。地区別にみると県南地区（9.20）の定点当たり報告数は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので特に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：県内でレプトスピラ症の報告がありました

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ菌の感染により起こる人獣共通感染症（同一の病原体により、人も動物も罹患する感染症）です。

レプトスピラ菌はネズミなどの尿中に排出され、ヒトは、この尿で汚染された水（淡水）や土壌から経皮的あるいは経口的に感染します。

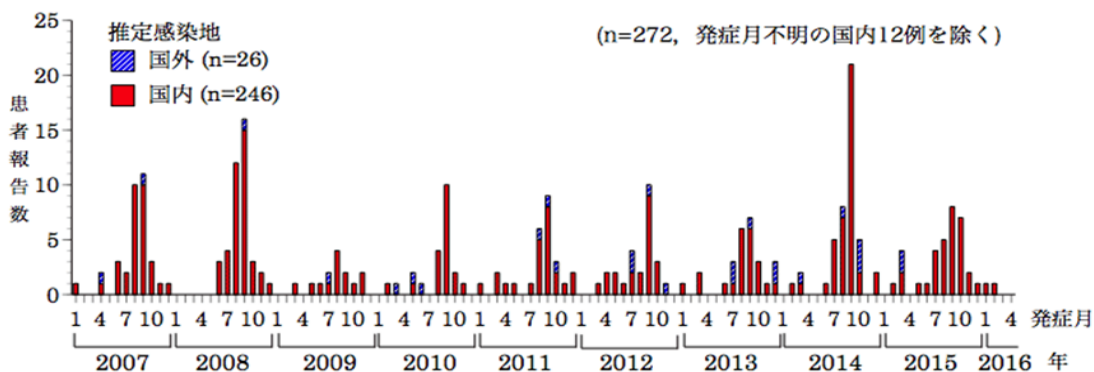
近年では衛生環境の向上などにより患者数（死亡者数）は著しく減少しましたが、現在でも散発的な発生が各地で認められています。

レプトスピラ症は5～14日間の潜伏期を経て発症し、感冒様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型まで様々な症状を示します。

2022年第38週までに、全国で20件の報告があつています。県内では、2011年～2017年で3件でしたが、2022年はすでに2件の報告があつています。

国内では7月～10月に患者の報告が集中し、感染の場所として、田んぼ等での農作業、川でのレジャーが多くなっています。田んぼでの作業時は、ゴム長靴やゴム手袋を着用しましょう。また、擦り傷や切り傷がある場合は、川でのレジャーや農作業を控えましょう。

発症月別レプトスピラ症患者報告数の推移、2007年1月～2016年4月



(国立感染症研究所 病原微生物検出情報 (IASR) 2016年6月号より抜粋)

